

令和7年上野原市議会 第4回定例会席上 市長あいさつ
令和7年11月26日

本日ここに、令和7年上野原市議会第4回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご参集いただきまして、心より厚くお礼申し上げます。

本定例会の開会に当たり、提出いたしました議案につきまして、その概要を説明するとともに、市政運営の状況について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

さて、早いもので令和7年も残すところ1か月あまりとなりました。

今年を振り返りますと、令和6年1月に発生した能登地震発生から1年、阪神淡路大震災の発生から30年を迎える節目の年となり、全国各地で地震の恐ろしさ、災害への備えが伝えられる年でありました。また、今年の夏は、全国各地で40℃を超える暑さとなり、群馬県伊勢原市では、41.8℃を記録するなど、これまで経験したことのない猛暑に見舞われ、連日のように熱中症警戒アラートが発令されるなど、暑さへの備えも強く意識する年でもありました。幸い、当市においては、このような暑い夏にもかかわらず台風や大雨、また地震などの大きな災害に見舞われずにすみましたが、先月、東京都八丈島を襲った台風22号・23号による被害をはじめ、今年も全国各地で台風や大雨による被害が後を絶ちませんでした。私は、改めて、平時からの災害などへの備えの重要性を感じたところであります。

一方、今年は、旧上野原町と旧秋山村が合併して20周年を迎える節目の年であります。5月18日には、上野原市市制施行20周年記念式典を実施し、長崎幸太郎山梨県知事をはじめ、多くの来賓のみなさんをお招きする中、盛大に執り行うことができました。式典では、市のPR大使を務める「ゆう理」さんたちによるオープニングセレモニーから始まり、「木村勝千代」さんによる浪曲の口演、また小中学校の生徒児童による「私の好きな上野原市」「未来の上野原市」をテーマにした作文の朗読、市政功労者表彰など、多彩なプログラム構成となり、山梨県知事をはじめ、多くの来賓、来場者から高く評価していただきました。

また、11月6日には、市制施行20周年記念事業として、「中村雅俊スペシャルライブ」を、観覧を希望する1,053名の応募者の中から306名が抽選で選ばれ実施しました。51年前、日大明誠高校をはじめ、上野原市内をロケ地として撮影された中村雅俊さんのデビュー作「われら青春」に登場した俳優もステージに上がり、当時の上野原を振り返りながら歌うなど、通常のライブにはない演出による上野原市ならではのスペシャルなライブとなりました。観覧した市民の皆さんからは、「当時の記憶がよみがえる素敵なライブだった」「上野原市内がロケ地だったことを誇りに思う」などの声を聴き、市制施行20周年を祝うにふさわしい記念事業になったと感じております。

また、先週23日には、市制施行20周年の冠事業として「第3回うえのはらオータムフェスティバル」を開催し、宮城県女川町とのコラボをはじめ、近隣自治体として神奈川県相模原市もご参加頂くなかで、多数の団体出店、市内団体の出演や市との

協定提携先にも出展の協力をいただき、盛大に開催することができました。今後も、このイベントを通じて、自治体間の連携はもとより、市民や団体、企業など多くのヒト・モノ・コトがつながり合い、新たな価値が生まれる場として育てていけたらと考えております。

今年は、このような記念事業を通じて、市制施行20周年を祝い、将来への飛躍を誓う節目の年となりました。これまでの

20年は、変動・変革も多く、これからの20年も社会の基本的な構造が大きく変わり予測が困難な時代へと突入していくものと思われます。

しかしながら、上野原に住む一人ひとりが幸福を感じ、笑顔あふれるまちを次世代に繋げていくためにも、これからも、市民や事業者の皆様とともに歩み、繋がり、連携しながら、すべての市民が「将来に希望の持てるまちづくり」をめざし、職員と一丸となって市民の皆様の負託にこたえるよう、誠心誠意、市政運営に努めてまいる所存であります。

これから本格的な冬に向け、寒さが厳しくなる中、本日より12月12日までの議会開催となります。議員各位におかれましては、健康に十分ご留意のうえ、市政運営に対し、これまでも増してご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。